



世界から見た日本の税金

大田区立田園調布中学校 三年 密山 真理亜

日本の税金はどのような場面で私たち国民を助けているのだろうか。そう聞かれて私は具体的に答えることができない。

そこで、日本の税金制度と他国の制度を比べてみることにした。私はハーフでもうひとつ母国があり、その国ではあまり納税するのが大変ではないと分かった。納める必要があるのは、合わせて五〜二十パーセントくらいであり日本の五〜三十パーセントと比べると、少ない。比べてみると、どちらの国にもメリットとデメリットがあると気づいた。まず、税金を納める割合が低い方の国では、人々が多くの税金を払うことに追われずに自由に気楽に仕事ができる。これは働く人の精神を安定させられる上で、政府への不満が減る。反対に、この国では道路や道が壊れてもしばらくはそのまま放置されてしまったり、高齢者や孤児が住むことのできる施設が非常に少なかったりと、不便なことが多く経済の発展がとぼしくなっている。次に日本のメリットとデメリットをあげてみよう。日本の国民は、税金が多く、よく苦勞すると不満を聞くことがあふ。私たちの保護者や周りの大人から話を聞くと確かに大変そうだというのが伝わる。しかし、日本の道路や道はどうだろうか。壊れてもその

まま放置されず直ぐに国がお金を出して直してくれる。施設は各地域にあり、廃墟も全くない。日本の税金は多すぎて苦勞するとマイナスな方向に考えがちだが、こうして他の国と比べて視野を広げると、日本がどれだけ発展しており住みやすい国なのかが分かる。

次に福祉国家としても知られるデンマークと比べてみよう。デンマークでは一人あたりの納める所得税が四〜六十パーセントと給料の三分の一を占める非常に税金が高い国である。これだけ高いと国民はさぞかし不満だろうと思うが、国連による「世界で最も幸せな国」のランキングでもなんと、一位を誇っている。清潔で国民の満足度も高い国家はまさに私たちの理想だ。しかし日本はデンマークと比べて人口が日本の二十分の一程度しかない。日本は少子高齢社会ではあるが人口は世界の中でも多い方だ。これだけの人口で国の清潔さも保ち、国民の満足度も上げるのは非常に難しい。

では私たち中学生には何ができるだろうか。それは、日本の税についてよく学び、それがどのような場面でのようして役立っているのかを知ることだと思う。近い未来で税を納めることになる私たちにとって、税の知識は非常に大事である。税金をしっかり納め、働く人がいるからこそ、日本の清潔さや経済が安定している。私たちもいつか納める立場になったとき、世界と比べて気づいたことを生かし、日本の経済をより安定させられる社会の一員になりたいと思う。